

2013
6
No.136

喜多方普及だより

～ 喜多方からはじめよう

安全・安心 喜び多い福の島～



J A会津いいでチェリートマト部会青年部始動

J A会津いいでのチェリートマトは、古くは「**堂**ブランド」として、京浜地区の市場から高い評価を得ていますが、一昨年の東日本大震災及び東京電力福島第一原子力発電所の事故以降、県内の他産地と同様に風評等の影響も含め、販売単価の下落に悩まされてきました。

しかし、収量や所得が比較的安定していることなどから、I・Uターンなどによる新規栽培者が毎年複数名あり、生産部会の会員数や栽培面積は増加傾向で推移してきました。

そこで、部会では新規栽培者を含めた若手栽培者を対象に、栽培技術の習得や「仲間づくり」による情報交流などを目的として、平成24年12月4日、19名の会員により管内初の「青年部」を設立しました。

青年部では、今年の活動テーマとして「栽培管理の基礎技術と土壌条件改善に向けた基礎知識等の習得」を掲げ、去る5月10日には第1回目の現地講習会（写真）を開催しました。

県内には、「青年部」を有する生産部会は多くありませんが、全国的に名を馳せている産地には、新たな技術の検証や普及を目的に同様の取組を行っている事例は少なくありません。

「震災からの復旧・復興」を加速するためには、若い担い手の出現や台頭が大きな励みとなります。今後も、J Aや市町村と連携を図りながら、青年農業者の活動支援を一層強化してまいります。



祝 豊かなむらづくり県知事賞受賞

揚津グリーン・ツーリズム推進協議会
(喜多方市高郷町)

揚津グリーン・ツーリズム推進協議会が、豊かなむらづくり顕彰事業で県知事賞を受賞しました。「棚田エコ米と美味しそばの里」をブランド名とした棚田オーナー制度を柱としたむらづくりに、地区民が一丸となって取り組んできました。その結果、農業体験イベントを通じて、継続性のある交流を行い、地域振興と豊かな農山村のコミュニティ形成に大いに寄与していることが評価されました。さらに、平成25年度「豊かなむらづくり全国表彰事業」に、本県代表として推薦されました。

平成25年度の「棚田オーナー制度」開始式が4月28日に行われましたが、今後も棚田オーナーとの交流を通し、生き生きとした揚津地区を創りあげていかれますように御期待いたします。



豊かなむらづくり顕彰事業表彰式



てます！

橋谷田 淳さん
(西会津町)



橋谷田さん(38歳)は、若い頃建設業に従事していましたが、両親が高齢となり11年前に就農されました。当初は水稲8ha、繁殖牛3頭の経営でしたが、現在では水稲の受託面積も増え、水稲15ha、そば3ha、軟白ネギ5aとなり、今後の規模拡大を視野に、平成25年1月31日に橋谷田ファーム㈱を設立されました。なお水稲では6年前から有機栽培に取り組んでいます。将来の抱負は、規模拡大による雇用創出や、より安全でおいしいものを消費者に提供することです。

認定農業者や青年農業士、さらに町農業委員を3期務めるなど、地域の担い手として活躍が期待されています。

トピックス

風評被害払拭用トラック購入！
(北塩原村)

北塩原村では、平成24年度に「風評被害払拭用トラック」を購入しました。8月から運用を始め、独自の工夫に富んだ原発事故の風評対策を行っています。

このトラックは、村民にも貸し出されます。「まるごと保養地協定」を締結している東京都杉並区での観光物産展を始めとし、村内農産物の販売や宣伝に広く活用しています。

また、トラックには、村内の農産物や、磐梯山や檜原湖など村内の美しい風景がラッピングされ、すばらしい宣伝媒体となっており、グリーンツーリズムなど交流の拡大にも期待されています。



北塩原村ラッピングトラック

緊急時放射線モニタリング検査計画について

平成24年度緊急時環境放射線モニタリングに御協力いただき、誠にありがとうございました。穀類・野菜・果実・畜産物等、合計5,000点近い検査を実施した結果、基準値(100Bq/kg)を超えるものはなく、喜多方地域産農産物の安全性を再確認することができました。平成25年度も、引き続きモニタリング検査を実施し、安全性のPRに努めてまいりますので、御理解と御協力をお願いします。

▶ H25 モニタリングの進め方 ◀

- ① 地域において、栽培者数及び栽培面積が多い品目の中から、検査対象品目を選定して実施します(野菜特産:56品目、果樹:18品目)。
- ② 検査は、市町村あたり1品目につき3点以上を目安に実施します。
- ③ 検査結果やモニタリングの実施状況は、県HP「ふくしま新発売」、新聞各社、

ふくしま新発売。

<http://www.new-fukushima.jp/>

農業普及所FAX情報等(別途申し込みが必要です)でお知らせします。

なお、栽培者数や生産量が少ない品目は、モニタリングを実施した同一系統野菜の検査結果を参考としていただくか、市町村やJAに整備

されている分析機器により、自主検査を行って頂きますようお願いいたします。

◆ 自主検査の紹介 ◆

JA会津いいでは、昨年8月に放射線検査所を開設し、組合員の生産した農産物の自主検査体制を整備しております。

アスパラガスやキュウリ、トマトなど、当地域の代表的な野菜を始め、「いいの四季」などの直売所で販売される各種野菜等、年間約3,500点の検査を予定しています。

検査結果は、ふくしまの恵み安全対策協議会が運営するホームページ「放射性物質検査情報」(<https://fukumegu.org/>)に登録されています。



モニタリングと自主検査の連携により、放射性物質検査体制を強化すると共に、検査結果を正しく情報発信することにより、一日も早い風評の払拭に繋がるものと考えております。今後とも、御理解と御協力をお願いします。

ごあいさつ

皆様には、日頃から地域農業の発展に御尽力いただき厚くお礼申し上げます。

東日本大震災から2年が経過しましたが、会津地方においても農畜産物の風評が続いております。昨年の米の全量全袋検査につきましては、皆様の御理解と御協力によりほぼ終了いたしました。喜多方地域におきましては、検査した約110万袋のほとんどが測定下限値未満であり、基準値を超過した米はありませんでした。御協力をいただきました関係者の皆様方に、改めて感謝申し上げます。この全量全袋検査は、流通関係者や消費者の信頼を取り戻す上で、大きな効果があったものと確信しておりますので、皆様方には自信を持って販売していただきたいと考えております。

県では、今年を本格的な復興に向けた「実行の年」と位置付けて、皆様と一体となって農林水産業の復興を加速するため、各種施策を展開してまいります。特に、今年度は県産農林水産物の消費拡大を図るため、マスメディアを活用したPRや全市町村が県外での風評対策に取り組む予算を計上し、戦略的に消費者の信頼回復に取り組んでまいりますので、皆様の御理解と御協力をお願いいたします。

今、大きな課題となっております風評の克服は、これまで長年培ってきた「会津の底力」が問われているものと考えております。皆様方には、安全性は勿論であります。おいしいもの、品質の良いものをつくり続け、焦らず・くじけず・冷静沈着に取り組み、自信と誇りを持って販売されますよう、なお一層の御尽力をお願いいたします。

当所では、「普及事業の原点」に還って農業者や関係機関の声をしっかり聴き、放射性物質の吸収抑制対策を基本として、米の全量全袋検査やモニタリング検査結果の迅速な伝達等により風評を払拭し、農業・農村の振興に全力で取り組んでまいりますので、皆様方のなお一層の御支援と御協力をお願いいたします。

(所長 佐藤一雄)

平成25年度 喜多方農業普及所スタッフ紹介



(後列)	吉田 雅貴 (野菜特産)	山口奈々子 (果樹)	大島 健司 (畜産)	高倉 麻紀 (作物)	榊原 利浩 (野菜特産)	石塚有希冬 (作物)	山内 伸一 (野菜特産)
(前列)	岡崎 徹哉 (有機農業)	佐藤 正武 (野菜特産)	宗像 宏行 (経営支援課長)	佐藤 一雄 (所長)	高橋 平 (次長兼地域農業推進課長)	柏木 登 (野菜特産)	小林 祐一 (花き)

※有機農業担当は、会津農林事務所農業振興普及部に所属していますが、喜多方地域におじゃまします。

農業使用基準を遵守し、農業は適正に使用しましょう！
農作業事故が増えています。余裕をもった作業を心がけましょう。
野山で火災が発生しています。注意しましょう！

～ 内容に関するお問い合わせ、農業に関する相談はこちらへ～

会津農林事務所 喜多方農業普及所

住所 〒966-0901 喜多方市松山町鳥見山字下天神6-3

電話 0241-24-5743、5745 FAX 24-5746 E-mail kitakata.af04@pref.fukushima.lg.jp

ホームページ

喜多方農業普及所

検索

